



米獨斷交後の形勢

食糧軍需禁輸提議

米陸海軍使用權要求

米大使與國政府に迫る

支獨斷交と駐獨公使館

獨逸金寶寄贈要請

獨逸婦人傳令使用

滿洲御慰問使

地方官異動

男爵議員運動

朝鮮無煙煙株

日支銀行行務

支那政府唱道

大倉氏安東

總督艦員招待

千歳仁川入港

後藤内相轉地

醫師立候補

神宮献金整理

法院新出張所

土地事務取扱

露國小包出注意

大田理事任命

朝鮮に於ける經營事業

金堤の警備

元山の警備

光州の警備

海上保險低落

銀貨の前途

三井の警備

元山の警備

光州の警備

大田の警備

朝鮮の警備

金堤の警備

元山の警備

海上保險低落

銀貨の前途

三井の警備

元山の警備

光州の警備

大田の警備

朝鮮の警備

金堤の警備

元山の警備

海上保險低落

銀貨の前途

三井の警備

元山の警備

光州の警備

大田の警備

朝鮮の警備

金堤の警備

元山の警備

海上保險低落

銀貨の前途

三井の警備

元山の警備

光州の警備

大田の警備

朝鮮の警備

金堤の警備

元山の警備

海上保險低落

銀貨の前途

三井の警備

元山の警備

光州の警備

大田の警備

朝鮮の警備

金堤の警備

元山の警備

江蘇部の取締をうけたるが頗る神
兩刑事に護られながら奥村司法士
本町署長 野刑事

金四百圓を預けある旨判明し、二十一日中に現金總計三千九百五十六圓十五錢を發見押收したり、其他旅館に預けある物品としては手提行李二個、立袋一個、うち中には寶を盡したる衣類雜品數點及び釜山にて兇行に使用したる剃刀一個をも發見せし、何分約一萬圓の大金を携帶し、約五十日に亘り各地に於て華奢豪遊を極めたることとて、約三千圓は消費したる形跡

本町署 警 事

妙に靜肅の態度なりき本町署にては一應取調べの上其旨釜山警察署に打電し、同署より警官入京し、二十三日判明、同人を釜山に護送することゝなれり



御面筋に射りつけて重傷を負はせ同
 人が鮮血に塗れて打倒るゝを見るゆ
 直ちに戦掛の仲の路込み手を出
 け上りの吉村の驚きたる隙に乗り切
 近九千五百六十鎰在中の手提金庫
 を強奪し飛鳥の如く極路次に逃走
 たり

逃走す

此の性質を備へたる同人の素性に就て聞
明治二十九年五月、東京女子師範に在りし
小學三年生を卒業後、同年同校補習科に學
び、七年間同校立教女學校に在りし四十三年
四月、同校立教女學校中學校に在りし四十八
年三月、立教女學校高等科に入り、翌期四月、
九卒したるに而して同人が二十三才なる間

加平、金山、事務費

會計部

岸、長野 兩刑事山越にて追跡
而して金庫を開き見んとせるに折衝
通行人ありしを以て再び逃亡し人目
の觸れざる箇所にて伴の
▲金庫の蓋を 開き検べたる
に意外の多額なるに一驚を吃しなが
巴里、日清樓にも登検しは他旭町
理屋千成等にも立入る形跡あり此初

[illegible]

らる北窓のつゝ現金は手早く懐中
 或は袂に捻ぢ込み金庫は現地に遺棄
 して立去り雖て何食はね顔に足駄を
 買ひ求め泥足袋は脱ぎ棄て普通の商
 店員らしき風を装ひたゞ而して彼は
 殊てより計畫し居りたるものと見ね
 二十九日夜行列車にて京城より釜山
 へ赴き到着するや驛前の旅館に泊り
 三十日夜

▲**愈決心の臍** を固め旅館に



止宿し居りて未明に外出するを以て同僚より怪しまれ居るを以て深夜は殊更に遊樂に泊り込み同時に刺刀を買ひ求め置き翌早朝朝陽の風を装ひ身には羽織も著ず棉入れの下に半洋袴を穿き黒打帽子を眼深に被りたる身輕の装束をなし以て前記の電光石火的兇行に出でたる上巧みに非常線を畫り抜けて

▲姿を晦まし たり此事あるや釜山警察署を初め各官憲にて嚴重手配して搜索中なりしが、茲に二月十四日頃より原田次郎或は福田廣次と名乗りに登城し遊樂所、或は旭町の料理屋に登城して服裝など一有年あり金使ひの荒き上に服裝なども華美を極め居れるより早くも不審の意を極しと附け懸ひ居る中早くも可憐なを喰つて二月二十日夜朝鮮樓より歐洲方面に飛来せんと企て附近に觀み中なる兩刑中の監を掘め裏口より脱走して出手の方面に疾走したる兩刑事は遂に山越むをなして大町三丁目の入口にて引捕へんとしるが同人は却々の柔道に隨利きと兎もすれば逃亡んとするを取與

▲身體検査を行ひたるに際し中より手も断相なる新らしき百圓圓五圓の各日本銀行券を取交せ三千八百圓餘を所持し居るを發見したより有無を言はさず本町署に引致して取調の結果大抵は逃亡の意を極したるものか否か不明なり

◇男に遇ひに
 向つて左、
 新町樓の力彌が
 本町署の留置場
 に居る犯人に
 遇ひに行つて
 出て来たところ
 (二十一日正午)
 中央。正午より
 早

[illegible]

離れがよかつたやうです、然し
さうしては随分かしい方で、妻共
御でない時でも折々語を出さぬ
といふ風で、自分の居所は決
言ひませんでしたが「自分も實
多科料理店を出してゐて此の道
を歩行き届かぬ所がある」と
ますので

主人が出まして「行き届か
ころは改めるから切望他樓で遊
やうにして戴きたい」と歸まつ
たりもありました云々更に兩人を知
某は曰く「彼の男は京城の海華
人の長男でその父は料理店主と
前近は相當の地位にあつたから
教育を受けたのだが早くから
の束を脱け父の替か金を盗み

堀江福原遊廓
別府にて遊興

て遊び廻る事が度々あつたので
當されて一昨午頃から
一切寄せつけなかつたさう
である。一昨午頃旭町の花家にゐた
長子といふ豪者も深間になつて散
城で不始末をして暫らく田舎の
村つてゐるやうな思はなかつた
氣をするやうな思はなかつた
氣をするといふ女は今は不願に居るさ

帝を敵船とし九國九十鎊の遊興費を
拂ひたるを手初めに一月五日迄に
山にて兎行前後の一兩日を除き翌
朝船樓に流連し一月六日午後急
列車にて内地京都に直行し九日到
の上約十日間同地に滞在して各町

とある云々

ふ
る
な
け

古桶のやうに

沈んだ

皆んな乗船を忌避し

料理屋遊樂にて發進をなし或は見
し廻り一月十八日大阪に出て堀江
の歸其他にて同遊樂し三越支店に
去類其他の寶品を購求し二月一
より神戸福原遊樂にて同遊し二
月には大分縣別府にて入湯遊樂の上
間小倉等を経て二月十四日再度京
に歸ひ戻り久方振りに内地より歸
に歸ひ戻り久方振りに内地より歸
したりとて仲居一同へも十圓許り
祝儀を與へ其れより毎日の遊樂に
二月二十日迄に中間内地逃亡中の

下船者しもふりはありましたが、船長
と大分は從來の乗組員のみで、
それ以外が松島洋行の本館買収後
に松島洋行司開の石炭搬入に就
いた部だ。松島洋行の本館買収後
には前館主永川章氏より去月末松
島洋行に本館の買賣成立と共に二三
を命拾ひをしましたよ今考へて見
ると、櫻然とするやうです、柳九乘組の
良は前館主永川章氏より去月末松
島洋行に本館の買賣成立と共に二三

にも幾分消費したる模様ありと
 朝鮮樓仲居の話
 内宗雄が足繁く通ひ詰めた新町朝
 樓の仲居某は語る「あの人がそん
 惡い事をしましたのでせうか二月
 なつてからたびたび遊びに來まし
 けれども些になるを歸つて行きま
 した、遊び振りは可なり締つてゐ
 たが

しゃくわいしゆき
 社會主義

十一日夜十時門司旭座に於て

しむることゝなりましたが乗組
本船の留守老朽にして船底は常
水の侵入多く海上風波荒き季節
洋航海は
不安に 留へて下船を申
者が多くありました船長は自
下船したいと思ふ位であるが船
更つての初航海でもあるし自分
此の航海だけ危険を冒して行る考
に若等此の一航海だけ我慢し
て呉れとの説からそれでは云ふ

A black and white photograph of a group of nine people, likely a family, standing in front of a building with large windows. The group includes men, women, and children, all dressed in winter clothing such as hats and coats. The image is grainy and has a high-contrast, historical appearance.

●二頭の牛争闘
中列車に觸る

十二月八日午前五時、高橋郡中田町、除
里(寛平)が牛二頭を牽き、京金
安養寺浦湯内驛の中間木前街道の
切りを通行中、二頭の牛は軌道に走
り、踏んを破れ、及び、轡は懸
断せしむ、力及ばず折損、大田登
登前に午前著の列車進行し來り、停
せんとしたるも、驛方の爲め踏断中
牛は轡車に觸れ、一頭は即死し
頭は重傷、後遂に絶命、轡牛は無事
と云、更に不思議に、(鬼神)

なりしも列車は是が爲め三分間停車なり

中村學士遺骨到着　當日
順に於て葬に罷れたる玉學士中村
郎氏の遺骨は廿二日午後一時三十
分、中村氏夫人氏携帶したる八十
子並に鎮南前中村組若永淳太郎氏
より下關驛に到着直ちに山手町中
村次郎氏邸に入り親族諸氏の禮拜

水が漏つて
櫓丸古い船は怖い
のだか

行ひたる上二十三日午前一時三十分
 發列車にて内地（向ふ平壤）

嬰兒の屍體 二十一日午後
 時頃京城鎮路警察署南雲洞派出所
 巡查が影蔭門内の松原を通行中嬰
 児の屍體を發見し同署より係官警

航海 終へ門司に歸着した
遠征船しようと思惟し不安の裡
に皮の航海の途に就いた體でした

滿洲視察團
平壤會議所の幹旋
及び毎日申張の計畫なる南
洲視察團の内野人参加に就て
商業會議所の時局上最も

短艇は 二隻共ライフボート
ですから艇の内部周圍に空氣を充たれた裡
した空気が廻りしてあります爲めに
潮水が浸入しても沈没はせぬやうな
に成つて居ますが吾々生存者の短艇
は船長以下の分乗した短艇より小形
で然かも乗員は十九名で船長のより
四名多く乗つたものですから艇内は
殆んど人で填つたやうなもので吾々

鐵製で ありまして本艇から

醫出服脱就せしに、柱板九箇月目の
兒にして死後約一箇月を経過し居
るとの如く、婦人が死産兒を遺棄し
るものと判明したるが犯人掩蔽中
のものと疑ふ

大豹を獲す 平南達安郡捕
安樂郡太保は去る十四日坪院附近
の山に於て二頭の大豹を發見し
て一發にて一頭を撃止め他の一頭
を走せるより雪の足跡を辿ること七
里に於て突然一頭の大豹が十圍許り

の身現と爲し船底の勞を奪る
先づ來て二月二十三日午後七時
に於てに鮮人四十三名、約七十
集を乞ひ右觀察所國邊通の際
ける歡迎方法、並に參加觀誘
其人員數、とも二十名以上の
を爲す、此此舉、對しては工務
篠田第一、部長、木田府尹等も贊
居れり云々

斯處、暗い目に遭ひました然
々々は命がけ、助かつたら良いや
もの、行儀不明となつた船長以
五名の者は氣の毒なものです、其
時で沈没の原因は暴風驟波に襲
たにあるもの、

なるが爲めに外洋の
飲ます不眠不休で

針す時に狼狽なものですから船底を
破損し下からは放水するので艇内は

馬が中毒

ニセアカシヤの皮で

内地に於てはニセアカシヤの樹皮の
爲めに馬に中毒するとの説あり、各
面に於て目下、研究中なるが、水原動物
模範場に於ては今回此れが試験を
したるに其の結果に依れば乾燥した
るニセアカシヤの葉五百瓦にては中

潮水を湛へて常に膝を没し頭からは
怒濤の泡沫を浴せり、全身濡濕とな
り、唇大吹雪を見舞はれ、喉はす

て死しぬ

作用を現はせきりしも樹皮は百死ひゃくしに
て稍激烈なる中華現象を認めたり
馬匹以外の家畜に就いても試験續
中なれば馬匹及び家畜を飼育する
は同樹皮に對し注意せらる可んさ
(仁川)

仁川國春月妓會 仁川漢町馬場會所
取の櫛しに櫛る 脚部現はる廿五日 日
正より開始死に於て 脚部會費金一圓に
正より一等より五等まであり 飼治日數を

面にはれたれば狼狽ろうたいを定め一發
て美事止めたりと

平壤火災調へ 平壤に於け
は莫く吸微

右。狂人島内宗雄

會主 藤田杲及び山口

●今日紙は霜雪落三三——晴れ

飛入は勝手自由

珍しい一錢紙幣、日用品の暴騰

◆露國貨幣に兩換し
上よりわいたすゝゝあるゝげと

◆此の狀態を見ては
こゝろがらじやうたい

杉本海軍少佐の奨励

杉本海軍少佐の獎金
人は長ずるに伴ひ一層之を
傾向がある日本人は此
大に身心の強健を計ら

大阪から出る舟
小澤修造氏

であつて就中肺病は最も

[illegible]

がも
年一月増山院長の後を襲ふて
目に至る。其年市より

年一月、櫻井山莊の終年、彼にて
 日に至る。櫻井山莊より、同宿、
 る事あり年三十九、掘出、論文は、
 ラクナン、故法及び、新法、新法、
 關係なりと大版、

讀者文藝

川柳車

二日 日 神 位

深川在米特庫

山電	三、八	—
紡織	三、八	—
紡織	三、八	—

二日前場 時、新規教育
交換のみ頭重し

三品市場は各限を

地の好景氣は値段に構はぬ
明群にて作手以

神力授十二回三十三

豐州小豆

附値も安く米主も外に
酒類の多い物を出

寄十五圓

物多
行を八國と盟軍
示して敵

主を全部肩代

六月より臨時特別大興行

親田村正維(村田正維)翠紅閣
武大(北川)留(花)燕無賴

朝日新聞連載小説△佐藤紅緑氏脚作
庭劇「野」全五巻△中央文壇の増刊

の大一座、今秋は浪谷の側面に穴を穿ち、内地の
の富る二月十四日より花々敷開演可仕候
の程、偏に本願上候

內諸人費七拾九圓參拾六錢

丸山亮平商店

◎家庭會堂にては天下一品

靜岡縣駿河國江尻海岸(長電二〇四番)

醫學博士 金口座 京橋三三番

現代の道楽を解剖し或は

西井歸人病院

眼科
入
二頁眼科完
京城明治町東拓橫(電話二〇四四番)

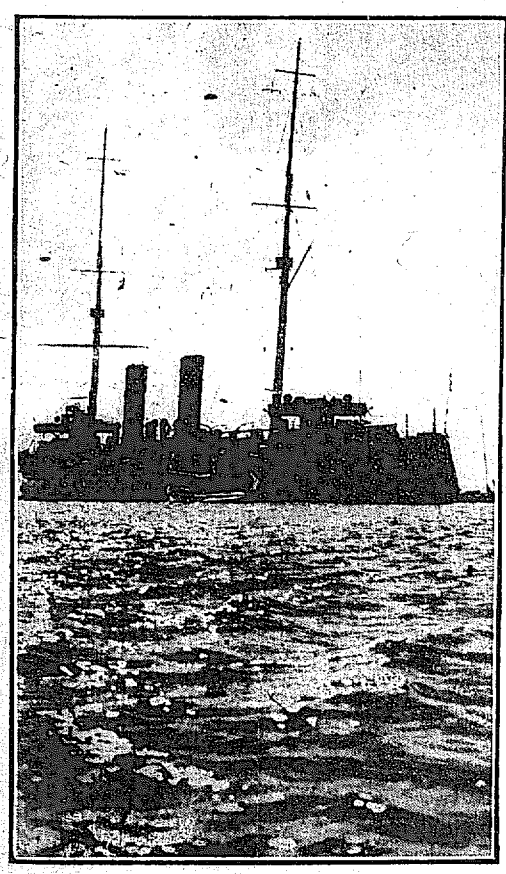
專眼
門科
意隨院入
京城明治町東折橋(電話二〇四四番)
江頭眼科醫院
日曜祭日午後二時迄 江頭 富雄

千歳艦 仁川投錨

●黄海の吹雪を衝いて
●長中村大佐語りて日く
●仁川港に投錨した千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。

青年がヒロイックな駄目だ

●海軍式體操の權威、杉本少佐曰く
●閉居されて居るから
●列外に出る居る
●徹底した智識を以て
●徹底的に自決を
●徹底的に自決を



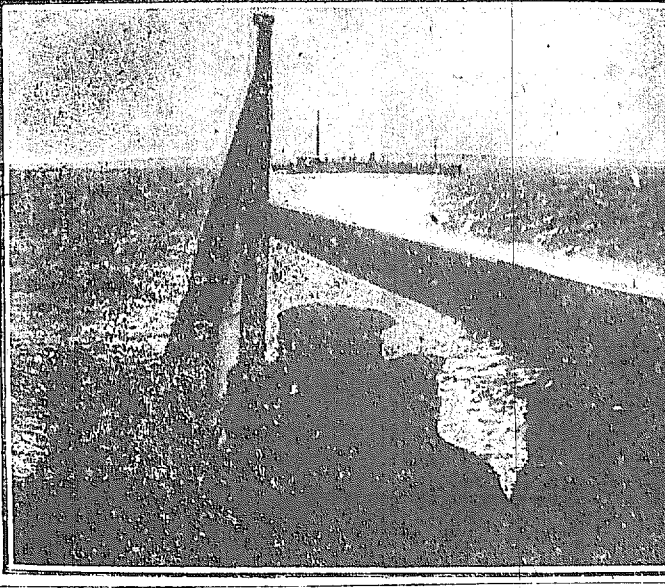
仁川港頭の練習艦千歳

●光榮ある艦歴
●千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。

●仁川港頭の練習艦千歳
●千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。

●瓦斯溜で自殺
●瓦斯溜で自殺した者は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。

●徹底的に自決を
●徹底的に自決をした者は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。



船は惜しくも無い

●強盗の判決
●強盗の判決を受けた者は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。

●徹底的に自決を
●徹底的に自決をした者は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。千歳艦は、長中村大佐の語りによれば、二十一日正午、仁川港に投錨した。

最新刊

●最新刊の書籍、雑誌、新聞の広告。包括的な目録形式で、様々なジャンルの最新情報を提供している。

京日案内

●東京市内の主要な施設、店舗、公共機関に関する案内。交通手段や営業時間などの詳細が記載されている。

肥農苗種

●農業関係の広告。様々な種類の農作物の苗や種を販売している業者の情報が掲載されている。

大塚製薬

●大塚製薬の広告。様々な種類の医薬品や健康食品の宣伝が行われている。

朝鮮總督府許可

●朝鮮總督府の許可を得た様々なサービスや商品の広告。主に朝鮮半島に関連する情報が多い。

支店

●様々な企業の支店や代理店のリスト。地域ごとの営業拠点を示している。

その他

●その他の様々な小規模な広告。サービス業、飲食業などに関する情報が含まれている。

